

# 新国指定史跡の紹介

東京都指定史跡であった「じんたい じしやあと深大寺城跡」  
「い い なお すけ ぼ井伊直弼墓（国指定名 ひこ ね はん しゆ い い け彦根藩主井伊家  
墓所）」が平成19年度に新たに国の史跡へ  
指定されたので紹介します。

**深大寺城跡**（平成19年7月26日指定）

所在地 調布市深大寺元町二丁目

都立神代植物公園水生植物園ほか

深大寺城跡は、都立神代植物園や古刹深大寺が所在する地域にあり、水生植物園内に主要な郭（第1郭・第2郭）と遺構（櫓台・土塁・堀など）が残ります。

深大寺城は関東の実質的な支配者であった管領上杉氏（山内・扇谷）が、相模に進出した北条氏と南武蔵の覇権を争っていた時期に築られました。扇谷上杉朝定がとちぎた大永4年（1524）北条氏綱に奪われた江戸城を奪還するためなど退勢挽回を図るべく、多摩川を挟んで対峙する北条方の小沢城（稲城市・川崎市）に対抗するため天文6年（1537）4月、古城（実態不明）を再築城し、重臣の難波田弾正を城主にしたものとされます（江戸後期の文献など）。しかし、上杉方の主要城館である河越城が北条氏に落とされ、北条方の勢力が埼玉県中部まで一気に広がり、主戦場が他に移ったためその効果を発揮することなく、同年7月に廃城になったとされます。

深大寺城跡は、水生植物園の西側台地上南側で第3郭と西方を画する溝と虎口が発見され、三郭からなる直線連郭の縄張り構造のほぼ全域が残されていることが確認されています。築城主体、時期が特定でき、特に後北条氏の改変を受けていない城郭で、関東管領上杉氏系の中世城郭の築城技術を示す貴重な城跡です。



現在の深大寺城跡

**彦根藩主井伊家墓所**（平成20年3月26日指定 都史跡は「井伊直弼墓」のみ対象）

所在地 世田谷区豪徳寺二丁目

彦根藩主井伊家墓所は、徳川四天王として著名な筆頭譜代大名井伊家代々の藩主の墓所のことで、滋賀県彦根市清凉寺、東近江市永源寺及び彦根藩領であった世田谷区豪徳寺に別れて所在します（三ヶ所同時に国史跡に指定）。

彦根藩主井伊家は、譜代大名の中でも別格とされ、徳川御三家や親藩同様に移転や移封がなく、將軍近侍を命じられ藩主は江戸在府とされていたことから、国許と江戸の墓所が同規模に造営されたとみられ、江戸時代の藩主14代全ての墓所が良好に遺存していることが高く評価されます。豪徳寺には、約3,600㎡の範囲に2代直孝、13代直弼の墓を含む藩主6名の墓やその正室・側室、子息・子女の墓など87基の墓があり、藩主・正室などの主要な墓の改変・移設が無く、筆頭譜代大名の大名墓所の形態を良く保存しています。唐破風笠付位牌型の堂々とした墓石を基本とし、江戸及び江戸周辺に現存する大名墓所の中では最大規模のものです。

豪徳寺は井伊家との関係で「招福猫児」の寺としても有名です。また、この地は中世領主吉良氏（足利氏の一族）の居城である世田谷城跡（都旧跡）で、周辺には土塁や堀が遺存し、豪徳寺南東の世田谷城跡公園には主郭部分が残っています。



## 編集担当から

今号は11年目を迎える東京文化財ウィーク2008の特集を組みました。毎年御参加くださる方も、初めての方も、この機会に皆様の身近にある文化財に会いにお出かけ下さい。

平成20年8月31日

発行 **東京都教育庁地域教育支援部管理課**  
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話 03(5320)6862